

謹賀新年



一般社団法人
群馬県造園建設業協会

会長
須永 敏明

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては新春を健やかに迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

昨年におきましては協会活動に積極的に参加、協力頂きまして心より感謝申し上げます。建設業界全体としては非常に忙しく人手不足が一番の課題とされたようですが我々、造園業者としては実感を伴わないものだったのではないのでしょうか。仕事を増やして事業を拡大していくには緑の大切さや良好な環境の維持が理解されるような啓蒙活動が必要と思われま。

さて昨年の協会活動としては長野県で開催された関東甲信造園建設業協会協議会での情報交換、茨城県主催の関東四県公園緑地協議会での松くい虫対策についての勉強会がありました。

関東四県公園緑地協議会からの埼玉県退会という残念な事がありました。今後の協議会のあり方を示唆するものではないでしょうか。

これからの課題としての社会保険未加入に対しての研修会、資格取得に対しての講習会等を開催しました。それらでは造園団体協議会の皆様と協力してお互いが参加、援助しあう事ができました。これから増々関係を深めて活動を増やしていきたいと思っています。

これからの協会活動としては今、非常に難しくなっている伝統技能の継承や若年技術者の採用・育成にも力を入れていきたいと思ひます。それには県内の造園業者、団体が協力して取り組んでいく事が大切です。より多くの人の力と知恵を結集して将来に繋げる事業が必要なのではないでしょうか。

多くの課題を抱えた協会ではありますが協会員の皆様の協力を仰ぎながら必要とされる協会を目指してやっていきたいと考えます。

結びに会員の皆様にとって明るい希望を持てる年になりますよう祈念申し上げ新年の挨拶といたします。



群馬県知事

大澤正明

新年明けましておめでとうございます。

群馬県造園建設業協会の皆さまには、健やかな新春をお迎いのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は、「上野三碑」が世界記憶遺産の国内候補に選定され、「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」が日本遺産に認定されるなど、本県の歴史文化の奥深さを県内外に発信することができました。また、スポーツの面でも、「2015ぐんま冬国体」の開催や、県内外の多くの皆様の参加を募り、今回からフルマラソンにグレードアップした「ぐんま県民マラソン」が大成功を収めるなど、多くの皆さまに本県の魅力を感じていただけたものと思ひます。

県政の最大の使命は、県民の安全・安心を確保し、将来にわたって県民生活の充実を図っていくことにあると考えています。昨年9月、近隣の栃木県や茨城県などに甚大な被害を与えた関東・東北豪雨のように、近年、自然災害は局地化、激甚化しています。「群馬県は災害が少ない県」と言われていますが、このことは平時から防災・減災対策にしっかりと取り組んでいる結果であります。この姿勢は今後も変わらないと考えているところであり、「安心して暮らせる県」、「安心して子育てができる県」、また企業にとっても、災害時に「安心して業務継続できる県」づくりを進め、移住・定住の促進や、企業誘致等の民間開発の活性化につなげてまいります。

群馬県は高速道路が充実している県であり、その効果を県内すべての地域に行き渡らせるよう、引き続き「7つの交通軸」の整備・強化を重点的に推進し、県民生活の向上や快適性の向上を図ってまいります。また、北陸新幹線の金沢延伸や圏央道の開通などにより一層高まった本県の拠点性を最大限に活かすため、コンベンション整備などによる、「人、もの、情報」の集積を図る新たな拠点づくりを進め、ビジネスチャンスと交流人口の拡大による県内経済の活性化に引き続き努めてまいります。こうした施策を、4月から新たにスタートする次期総合計画と群馬県版総合戦略の中しっかりと位置づけ、「暮らし始めたくなる」「住み続けたくなる」「家族を増やしたくなる」群馬県の実現に向けて、「はばたけ群馬・県土整備プラン」に基づく社会資本整備を着実に推進し、人口減少対策に全力で取り組みます。

今年は「花と緑のぐんまづくり2016 in みどり」が4月15日から5月15日まで、みどり市で開催されます。「みどりしさんぽ～緑のみどりへでかけませんか～」を開催テーマに、みどり市から群馬の元気を発信し、魅力ある観光資源とともに、皆様の協力のもと、美しい花と緑でたくさんの方をお迎えしたいと思ひます。

結びに、この一年が県民の皆さまにとって健康で幸多い年になりますよう心から祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。



群馬県議会議員

中沢 丈一

新年あけましておめでとうございます。皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、暑い夏、秋の長雨、特に茨城県鬼怒川水域では、集中豪雨により甚大な被害がありました。群馬県八ッ場ダムも早期に完成させ、治水能力を高める必要と社会資本整備の必要を改めて感じた年でありました。

群馬県は東国文化の「くに」であります。秋には、上野三碑「多胡碑」「山上碑」「金井沢碑」が世界記録遺産として日本の候補となりました。

議会提案の手話言語条例が施行されました。今後、手話の普及と啓発に努めてまいります。手話通訳者の養成と派遣事業を展開し、様々な場面で難聴者とコミュニケーションが執れるよう対応してまいります。

議会では「家庭教育推進条例」制定に向かって取り組んでいます。幼児虐待や家庭が地域から孤立している状況、地域のコミュニティが希薄化している現状に鑑みて、家族・家庭をもっと大事し、地域で見守っていける条例であります。

安保関連法が制定となりました。「戦争抑止法」であります。国は、今後も丁寧に説明していく必要があります。TPPが大筋合意しました。畜産・米等に大きな影響が出てきます。農業が食料安全保障のためにも維持し強化される政策を打ち出す必要があります。

地方創生「まち・ひと・しごとづくり」人口減少をくい止めるために、地方・地域が知恵を出さなければなりません。故郷が元気を取り戻すために、皆様の知恵をお貸し下さい。

街路樹等の管理作業を見ていると、皆様が故郷を大切にしている事が分かります。緑は、人間の生活に潤いを与えてくれます。其々の家にあっても「庭」が欲しいと思いは確かであります。そこで、地方創生は、緑の故郷づくりから始めてみませんか。

本年もよろしくお祈り致します。

貴会の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。



群馬県議会議員

久保田 順一郎

平成28年の新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。昨年4月は統一地方選挙群馬県議会議員選挙では、皆様の厚いご支援とご指導のお陰様をもちまして、選挙区内トップ当選となり賜り身に余る光栄であり、心より感謝申し上げます。また、夏の知事選挙におきましても多くの皆様のご支援により大沢知事三期再選を遂げ、関係各位に重ねて感謝申し上げます。

さて、昨年は、国内外共にTPPやテロ、安保法案、地球環境会議COP21等々大変緊張感のある激動の年でありました。そして、本年はマイナンバー制度の実施や消費税軽減税率、医療・福祉関係事案の改訂実施等々、憲法改正論議に至るまで政治的課題・懸案事項が目白押しとなっています。

一方、人口減少時代の中、群馬県では良好な県政運営とはいえ、「まち・ひと・しごと創成法」による予算獲得に向け、地方創成への取り組みに7つの交通軸の推進をはじめとする各施策展開に予断を許さぬ状況となっています。本年は政府税調の動向やら打ち出される各法案を以前にも増して注視する必要があると予測されます。

現在のグローバル経済ではTPPは以前以上に国内外の経済枠のレンジを変え、国内産業・各業界に及ぼす影響は大きくなりました。温暖化ガスを2030年までに13年比で26%削減する国際公約の政府目標は、エネルギー問題への基本的な取り組み概念をシフトさせなければなりません。また、労働構造の変化はもとより、深刻な人口減少問題を前提とした取り組みを念頭に置かなければなりません。そして、毎年ノーベル賞受賞者を輩出する「日本ブランド」が健在であることは、誠意と誠実さを基調とした教育と日本の精神文化がこれを支えている事を忘れてはならないと思います。

最後に、本年も皆様にとって実り多い年でありますよう祈念し、地元群馬県の発展のため、皆様と共にぬかりなく取り組んでまいりたいと思います。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を引き続きお願い申し上げます。新年のご挨拶と致します。



群馬県議会議員

橋爪 洋介

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は県議選におきましてたいへんお世話になり、誠にありがとうございました。また、夏には知事選挙と重ねてご尽力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

さて、話しは変わりますが、昨年10月、「ミラノ国際博覧会」に行っていました。「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに184日間にわたってイタリア国ミラノ市にて開催され、群馬県も絹文化、上州牛、コンニャクのPRということで参加をさせていただき、大いに好評を得ました。

世界の中で我が日本の優れている部分が上手く表現された日本館のテーマ性「日本の食文化（和食）」の勝利であると感じました。世界無形文化遺産にも登録された和食の優位性、すなわち「多様な食材、健康的栄養バランス、季節感、伝統的行事との関連など」が世界の人々に評価をされ、日本館はパビリオンプライズ金賞を獲得しました。私自身も拝見をさせていただきましたが、素晴らしい出来栄に時間さえ忘れるほどであり、諸外国の方たちが長い時には10時間も並んで観た価値はあるなあと、改めて海外から母国日本の「良さ」を体感させていただきました。

質、量ともに大切ではありますが、質には限界はなく、質感を迫及した日本の文化という概念が今まさに求められ始めているのかもしれない。これは持続可能性にも通ずるものです。限られた量、空間の中で如何にテーマを表現出来るかということと、造園建設のお仕事とは何か「緑」を感じております。

これからも自信と誇りを持って県土発展に尽くされることをご祈念申し上げて、年頭のご挨拶と致します。